

UNFPA と共にジェンダー配慮サービス拡大を継続支援

2月20日、伊藤大使はアムハラ州を訪問し、日本政府が資金を提供し UNFPA が実施する「アムハラ州とベニシャングル・グムズ州の紛争と COVID-19 の影響を受けた地域におけるジェンダーに基づく暴力(GBV)とセクシャル・リプロダクティブ・ヘルス(SRH)対策」プロジェクトの引渡式及び同プロジェクトの次フェーズの発足式に参加しました。

本プロジェクトでは、性的・ジェンダー暴力の被害者や妊産婦などを含む女性、少女、若者が必要な情報及び保健医療サービスへアクセスできるように、医療体制の強化、必要な医療器具の整備、巡回サービスの提供、最も脆弱な立場にある女性・少女向けの衛生キットの配布などの支援を行っています。

今回は支援先の一つであるティリリ・ヘルスセンターを訪問し、サービス提供の様子を視察すると共に、医療器具一式と衛生キットの引渡しを行いました。また、伊藤大使は日本が本支援を継続することを約束し、次フェーズのプロジェクト契約に署名しました。

